

轟とどろ

平成22年10月27日

10月号

大盛会！樅木天満宮大祭

24日(土)に前夜祭そして25日(日)に大祭が樅木天満宮で開催されました。当日はあいにくの雨模様でしたが、今まで神楽保存会の皆さんと夜間練習を積み重ねてきた成果を精一杯出してくれました。



稲刈り・脱穀体験の体験活動を体験

5月に田植えした苗が玄派に育ち、高尾昇さんのご協力で今年も稲刈り・竿がけ・脱穀の体験活動に取り組みました。感心するほど子ども達はよく働きました。



エプロンが完成

5・6年生は、家庭科でエプロンづくり挑戦しました。生地を自分で選び、型紙からミシンでの縫製に取り組み、納得のいく出来映えにはよがりしました。



さつまいも大収穫

3・4年生は、小さな手づくり農園に植え付けていたサツマイモが大きく育ち、意気込んで収穫したら、何とびっくり、こんなに取れました。



校長コラム

漢字の持つ意味は本当に味わい深いものである。「親」という字は「木」「立」「見」からできている。つまり親は、立っている木のかげに半分かくれて子どもを見守り、親が子どもに口を出さなくても、その場になくても一人できちんとしてくれるようにしつけるのが親なのである。自分の子どもは言わないとしない、叱ってもしないようであれば、親としてのあり方を再度見直す必要がある。子どもは日々勉強しながら成長しているが、親も子育てを日々勉強していかねば言うこと聞かない人に育ってしまう。子どもはみんな大家族というテレビ番組の中で、子どもは全員男兄弟で小中高年生。さぞかし親は大変だろうと思っていれば、母親は週に3回しか夕食を作らないという。そればかりか玄関はいつも靴は片付けられ、子ども部屋はとてもしっかり整理されていた。両親は、小さい時から「して見せて」子ども達ができるまで徹底してしつけたのである。トイレ掃除・玄関掃除・料理当番など家族としての役割が与えられていた。決して「お手伝い」意識は許されない徹底ぶりなのだ。子どもの将来を見据えて夫婦が一つになって子育てをしていた。これこそが「親」なのである。小さなしつけの積み重ねは習慣化し、「当たり前のこと」として子どもに浸透し、幸せな生活に繋がっている。

就学時健康診断を実施

新一年生2名を対象に、5日(火)に就学時検診を実施しました。午前中は診療所、午後は学校で歯科検診・視力検査などを受け、保護者は栄養教諭等からアドバイスを受けました。



五家荘伝説「熊山発見のきっかけ」

6日(水)に隈部先生から「熊山(五家荘)発見のきっかけ」について話がありました。殿様は流れてきた汁椀で落人の存在を確信、征伐に動き出す。



泉町内3・4年生の社会科見学を実施



14日(木)に泉町内の3・4年生は、合同で八代市内の施設の見学に出かけました。クリーンセンターや消防署そして八代ゆめタウンで色々な説明を受け、たくさん質問をしてみました。

飛び梅物語のお話



7日(木)に黒木智さんから、飛び梅物語のお話がありました。菅原通真と飛び梅。そして太宰府天満宮と五家荘の結びつき、それが全国で唯一、飛び梅の根分けが実現したことを詳しく教えてもらいました。

福寿草の運動会に参加



19日(火)、福寿草の運動会に全員で参加しました。ご高齢の方との交流で温かい心に接することができました。